

「天使のとむらい」

山田 えみこ

人物

川崎徹（25）会社員

白河萌音（22）大学生・アイドル

白河常雄（52）会社役員・萌音の父

白河初音（50）萌音の母

法崎正（48）弁護士

裁判官（55）

○裁判所・法廷

被告人席に、川崎徹（25）が、くたびれたYシャツ姿でうなだれている。大勢の傍聴人。

傍聴席には、記者たちが気ぜわしくパソコンに向かい、キーを叩いている。裁判官（55）が、裁判官席で徹を見つめている。厳しい目。

傍聴席には、白河常雄（52）と、白河初音（50）の姿。

二人とも、清楚で高級感のある服装。

裁判官「では、被告人、川崎徹。起訴内容に全く異論はないのですね？」

川崎「はい」

初音「（嗚咽）ううっ」

傍聴席はざわめき、席の記者たちのパソコンを打つ音が響く。

常雄「なんて奴だ。私たちの萌音を……」

初音「あの子は、あなたを信じてたのよ。それを、それを……」

初音、泣き崩れる。
支える常雄。

じっと、被告人席で握りこぶしをし、
耐える徹。

手が震え、肩を震わせている。

弁護人席で、法崎正（48）が、大きな目をじっと徹に凝らしている。

法崎の頭は、ぼさぼさで、ワックスも
ポマードも塗られていない。

法崎、じっと視線を机の上に落とす。
ゆっくりと、裁判官は法廷を見回し、

裁判官「では、被告人、異議なし、という事
で……」

法崎「待ってください！」

法崎、挙手をする。

裁判官「弁護人、なにか、反対意見があるの
ですか？」

法崎「はい」

裁判官「発言を認める」

法崎「有難うございます」

法崎、徹のほうに、向き直り、

法崎「川崎さん、本当にこのままでいいのですか？」

川崎「……」

川崎は、手をぎゅっと握ったまま、下を向いてうつむく。

法崎「……それで、真犯人が捕まらないでも？」

傍聴席・白河夫婦「真犯人!？」

川崎、震えている。

法崎「あなたの恋人、白河萌音さんは、あなたでなく、ほかの男にレイプされて自殺しましたね!？」

傍聴席・白河夫婦「え!？」

川崎、はっとして、強い目で法崎を睨みつめる。

法崎「それも、とんでもない、ろくでなしだった。黒人で……」

川崎「ちがう!!」

法崎「あなた、それでもいいんですかっ!？」

川崎、わなわなと震えている。

法崎は、襟を正し、立ち上がり、続ける。

法崎「被害者、白河萌音さんは、皆さん、ご存じの通り、将来有望なアイドルで、かなり人気も出てきた人です」

法崎、法廷を見回し、

法崎「その萌音さんが、突然、ある黒人男性に襲われて自殺した。真犯人は、連続レイプ犯。かなり酷いことをされた」

川崎「ちがう!!」

川崎、狼狽して立ち上がる。

法崎「萌音さんは、穢れてしまった」

川崎「ちがう!!」

川崎、わなわなと震え、握りこぶしを握る。

法崎「萌音は、……萌音は……」

川崎「萌音さんは、穢れていない……あなた
は、そう思いたいですね。自分以外に穢
されてない。そして、ファンにもそう思わ

せたい。萌音さんは、綺麗なのだと」

わなわなと、震える川崎を見つめ、法
崎、

法崎「ただ、萌音さんの恋人、あなたの手に
かかって死んだのだと」

川崎「萌音は……萌音は……」

川崎、嗚咽する。

川崎「一点のくもりもない子だった。汚れて
なくて、清純で、まっすぐで」

白河夫妻の目に涙。

川崎「まっすぐで、俺を見つめて、まったく
綺麗な目で……無邪気で明るくて」

傍聴席から漏れる嗚咽。

川崎「そんな、萌音は、……そんな萌音は……
……」

法崎「突然のように、ごろつきの黒人に襲わ
れて死んでしまった」

法崎は、法廷の中央に出て、川崎の被
告人席の前に手をつき、

法崎「あなたは、萌音さんが穢されていない

ことを強く願った。ゆきづりの男になぶられるようにして死んだのではないと。せめて、自分の手にかかって死んだのだと」

川崎「ちがう！萌音は……!!」

法崎「あなた、それでいいのですか!？」

ばん！と、被告人席を叩く。

法崎「萌音さんの、真犯人が捕まらなくて

も！そして、かつて萌音さんが愛したあなたが、犯人として代わりに捕まっても!!」

法崎の手が震えている。

川崎は、わなわなと震えているが、泣き崩れる。

川崎「萌音は、……萌音は、……」

法崎「川崎さん！現実を見て!!」

川崎、泣きじゃくりながら、

川崎「萌音は、……綺麗で、純情で……」

法崎、冷たい悲しい目で川崎を見つめる。

川崎「汚れてなくて……、俺だけの、俺だけの萌音なんだ……」

法崎、じつと目で川崎を見つめているが、

法崎「だけど、認めないと、先に進めない……。現実を見て。このまま、真犯人が捕まらなければ、萌音さんの無念は、浮かばれないですよ」

川崎「しかし……」

法崎「萌音さんが、あなたが代わりに服役しても、あなたが、真犯人を訴追しないで逃がしてしまっても、あなたが、自分のせいで罪に問われても、後悔しない、と言うんですか!？」

川崎「……」

法崎「萌音さんは、ゆきずりの男になぶられるようにして死んだ。そして、その男が捕まらずに、愛してたあなたが罪に問われるということに耐えられると思うのですか!？」

川崎「わっ……」

震え、泣き崩れる川崎。

嗚咽を続ける。

そして、決心したように、法崎を見つめる。

川崎の視線を受けて、大きく頷く法崎。

法崎「裁判官！被告人主張を差し替えます！

被告人は、無罪を主張します！」

ざわめく法廷。

裁判官「静粛に！」

ざわめく法廷を沈めようと手を上げる

裁判官。

裁判官「被告人、異論はありませんか？」

静かに頷く川崎。

裁判官「審議の為、一旦、法廷を休廷します

!!

ざわめく法廷。

退廷する裁判官たち。

険しい、不満の顔を浮かべて、同じく

退廷する検察官たち。

そして、くずおれる川崎。

顔を見合わせ、狼狽委する白河夫婦。

静かな表情で、法崎だけが、川崎を見

つめ、立っている。

川崎、嗚咽し続ける。

法廷にいた記者たちが、あわただしく廊下に出る。

川崎の嗚咽が続く。

法崎「これからです、これからが始まりです」

法崎、川崎を見つめ続ける。

おわり